**第４７回観察会　2007年２月22日(木) 12:05～12:55　晴れ**

**テーマ『イヌビワについて』**

**☆ガイドレポート**

ダーウィンさんのコメントが欲しい
―犬枇杷と犬枇杷小蜂の不思議な関係―

未だ2月22日というのに、当日は、まさに「春らんまん」と言っても良い程の晴天に恵まれた植物園散策日和であった。

眞冬の植物園は、木々草々の殆んどが葉を落して閑散としたものだが、見方を変へる時それは一つの観察チャンスでもある。即ち、常緑樹、落葉樹の違いが一見してわかり、又森林全体を見透かせる状況から、木肌の特徴による樹種の判別が出来る利点があり、その色やデザインの面白さを楽しむ事ができる。しかし、それはそれとして、植物達は、それぞれ来るべき活動の春へ向けて見えない所で着々と準備を始めている。けれども、集められる人々に対して、何か冬も活動している事をハッキリと見る事の出来る対称を、下見において探してまわった。するとアッタアッタ。落葉して裸木なのに、緑の実を幾つも付けたイヌビワの雄木を見付けた。更に幸運にも隣には対比に都合良く、実のない雌木も生えていた。・・・・・やれやれこれで当日のメインテーマができたと一安心。

しかし、かねてからイヌビワとイヌビワコバチの、互いを思いやる心を汲みとれるような、複雑で不思議な共同生殖活動の解説を、1時間という植物園見学の間に成し得るだろうかが気掛りとなった。そこで、当日お配りした、あの解説図を作ることにした。

さて、正午門前を出発。先づわかり易くて、今見るものとしての冬芽とその芽鱗（冬芽を保護する鱗状の外皮）と、昨年春の芽鱗痕（芽鱗の落ちた痕跡）のお話---。それによって、一年間に伸びた枝の長さがわかった。それから、園内を巡りつゝ、樹種による木肌の特長や面白さを楽しんで頂いた。特に古い歴史を持つ京大植物園ならではの年を経た木々が多く、それぞれの木肌に古木でなければ味はへない澁さと風格が刻み込まれていた。そして、それが市内の京大キャンパス内という地理的に有利な条件にある所に大きな魅力がある。木々の例をあげれば-チャンチンモドキ、シナユリノキ、モチノキ、トウカエデ、トウサイカチ、クヌギ、クリ、コナラ、メタセコイア，ｅｔｃ．ｅｔｃ．・・・。

さて、残った時間を本題のイヌビワが雌雄並立する前で、その興味深い生態について、解説図を用いてのお話を進めたが、その中ばでタイムオーバーというプレッシャーが掛り、充分に「ガッテン」して頂けたかが心がかりとなっているが、皆さんから熱心な御質問を多く頂き乍ら、つゝがなく終わる事が出来た。念の為、こゝにその要点をまとめると、先ず生物史上、現時点におけるイヌビワとイヌビワコバチの関係は、全くの共存であって、どちらが欠けても双方の生殖があり得ず、双方の子孫存続も又同様である。即ち、イヌビワは、種子生産のための果実は通例通り雌木に設置しているが、一方の雄木には、本来不必要である筈の果実（果のう）を作り、先端に花粉を出す、ほんの少しの雄蕊をセットするのみで、下部の広い果のう内をイヌビワコバチのあたかも子宮の如き機能として改造して提供し、イヌビワコバチの幼虫への栄養供給と子育ての役目を担当している・・・と言えば御理解頂けるであろうか。

兎に角、前述したが、その働きには、双方の意思伝達やコミュニケーションが否定出来ない程の思いやり関係が見られる不思議は、若い学究さんに期待する新分野と思っている。進化論はヒックリ返せるのでは？・・・。私の自然観察５０年の直感である。

さて、終った後も、言い残したこと共が、あれこれと思い出されて、反省することあまたである。尚、林内では縄文前期甕棺遺跡を出土の状態で見る事が出来るのも、植物見学後の一興となろう。

ガイド：小吹和男さん（日本自然保護協会）

[資料](http://ja3yaq.ampr.org/~bgarden/kansatu/kansatu47shiryo01.pdf)：

[参考資料](http://ja3yaq.ampr.org/~bgarden/kansatu/kansatu47shiryo02.pdf)：

**☆参加者の感想**

参加者の感想文です。実名・匿名の指定がないかたはすべて匿名にいたしました。ご了承ください。

* ・植物の実についてこのような実例によって話を聴き、自然のなりたちについて理解できたが、只々結果は自然に感謝といったところです。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（京大近辺のかた、７５才、男性）
* 植物と動物の共生関係、今さらながら興味深かったです。説明がわかり易くて楽しかった。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（京大近辺のかた、５８才、女性）
* イヌビワ＝ビワの種類と思っていましたので、イチヂク属は新しい知識です。今日はありがとうございます。　　　　　　　　　　　（参加回数２回、５９才、女性）
* イヌビワのおはなし大変楽しくおもしろかった。　　　　　　　　（京都市内のかた、７０才、男性）
* この植物園は初めてでした。きれいな花でも写真にとりたいと思い参加させてもらいました。「いぬびわ」の生態の神秘（？）さに感心しました。自然・環境の保全の必然性を示す格好の例とも言えます。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（京都市内のかた、初参加、６９才、男性）
* イヌビワ始めて知りました。神秘的で自然でいいですネ。　　　　（未記入）
* しょくぶつとこんちゅうたちのいとなみに、もっともっときょうみがわきました。あったかくて、きもちよかったです。　　　　　　　（住所不定のかた、初参加、３２才、男性）
* イヌビワについては初めて話を聞きました。小さな木を庭に植えます。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（京都市内のかた、参加回数２０回、７５才、男性）
* 生命の出発。又新しく学ばせて頂きました。身近に見る色々な果実にも新しい思いを。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（記入なし）
* イヌビワとコバチとの絶妙の協働システム。真に生命の神秘を教えられた内容で、非常に参考になった。次回の「春の雑草」にも大いに期待している。（雑草と呼ぶのは可哀そうでは？野草と呼んでほしい）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（京都市内のかた、初参加、６４才、男性）
* イヌビワコバチの話しはわかりやすかった。絵も大きく身やすくてよかったです。ありがとうございました。　　　　　　　　　　　　　　　　（京都市内のかた、参加回数６回、５０才、女性）
* たいへん詳しいご説明でイヌビワとハチのおもしろい関係がよくわかりました。有難うございました。　　　　　　　　　　　　　　（京大職員のかた）
* イヌビワのオスとメスのお話などわかりやすくておもしろかったです。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（参加回数２回、６１才、女性）
* イヌビワの造化の妙に感動した。構内の樹木の銘板を分りやすくしてほしい。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（京大近辺のかた、８０才、男性）
* いつのまにか庭に生まれていた実のついた木がイヌビワだとわかってよかったです。子供連れできたのであまりお話がきけずに残念でしたが、親子で植物園のフンイキを楽しませていただきました。（京都市内のかた、参加回数３回、３１才、女性）
* いつも珍しい樹木を教えていただいて有難うございます。又よろしくお願い致します。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（京都市外から参加のかた、参加数回、７７才、女性）
* いぬびわの話とてもおもしろかったです。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（京都市内のかた、参加多数、５９才、男性）
* 非常にわかりやすかった。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（女性のかた）
* イヌビワの実は(名前知らずに)見たことがありました。あの実の中で、いろんなドラマというか人生？というかが、くりひろげられていることがおもしろいですねえ。羽根のない♂の中にもどんくさいのやら、ちゃっかりしたのやらいるんでしょうね！イヌビワコバチにニッポニアの学名があるということは、中近東にはそこにあった別のコバチと別のイヌビワ(亜種)があるということでしょうか？（京都市内のかた、参加回数２回、５３才、男性）
* 講師の先生のお話が無限にわいてくるようでたいへん楽しかったです。また天気がよかったのも何よりでした。　　　　　　　　　　　　　　　　　（京大教員のかた、初参加、４２才、男性）
* 昨夏ウガンダandボルネオでイチヂクコバチをよくみかけましたが、くわしくお話しがうかがえ面白く興味ぶかい生態にあらためて感心しました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（京都市内のかた、参加回数３回、５８才、女性）